

Japan Auto Parts Industries Association

JAPIA NEWS

2017
11・12

隔月刊
(通巻722号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特 集

「参加学生の多くが自動車分野の “ものづくり企業”に高い関心」

—全日本 学生フォーミュラ大会—

会員企業紹介

愛知皮革工業(名古屋市北区)

連載 DBJ経済ワンポイント解説 Vol.18

人手不足の現状と今後の課題

<http://www.japia.or.jp>

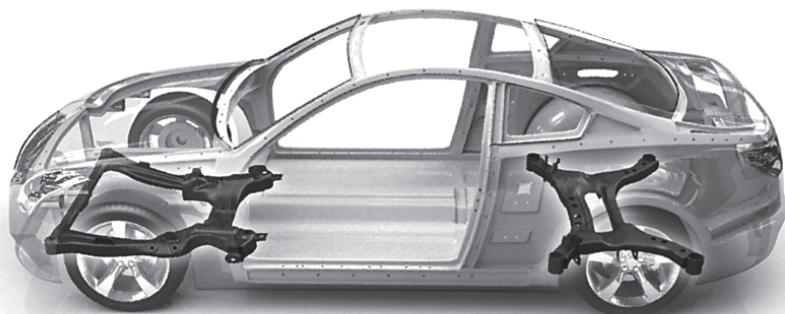
AKEBONO

BRAKE EXPERTS

www.akebono-brake.com



YOROZU



サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し、
“ヨロズブランドを世界に”

株式会社 ヨロズ

〒222-8560 神奈川県横浜市港北区樽町3-7-60

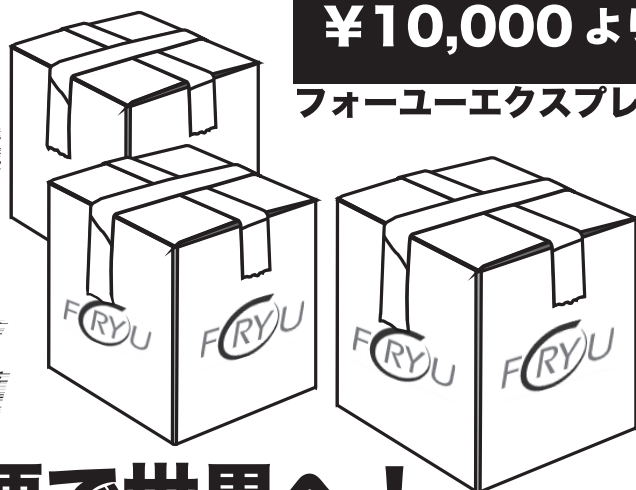
日本から中国へ、中国から日本へ、

航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス

最速



そしてチャーター便で世界へ！

日本→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc

中国→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc お任せ下さい。



安心、確実、丁寧な
ハンドキャリアで
皆様のご要望に答えます。

日中間だけでなく世界中 あらゆる地域への
ハンドキャリアにも対応します。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : <http://foryouexpress.jp/>

FRYU



フォーユーエクスプレス

検索

KOITO



安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

イワタボルトの グローバルネットワーク

国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木・上田・群馬
- ・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田・SOFI 課・海外課
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋
- ・刈谷・三重・大阪・広島・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ
(グアダラハラ・ケレタロ)・カナダ



認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	0772850	LRQA
	ISO/TS 16949:2009	IWATA BOLT USA, INC.	TS613385	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA, INC.	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01314	PERRY JOHNSON
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01313	PERRY JOHNSON
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	04104062166	TÜV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

「企業は人」
人材育成
 環境が変化しても
 長し続ける
 人材を育てる

人材育成制度

040 社

目標設定研修

098 回

評価者能力研修

567 回

昇格者選抜評価

160 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・エーアイ株式会社
 アイシン・エンジニアリング株式会社
 アイシン化工株式会社
 アイシン機工株式会社
 アイシン軽金属株式会社
 アイシン・コムクルーズ株式会社
 株式会社アイシン・コラボ
 アイシン精機株式会社
 アイシン辰栄株式会社
 アイシン高丘株式会社
 NTN 株式会社
 株式会社キャタラー
 埼玉工業株式会社
 株式会社ソミック石川
 津田工業株式会社
 株式会社デンソーエアシステムズ
 株式会社デンソーセールス
 デンソーテクノ株式会社
 トヨタ自動車株式会社
 株式会社豊田自動織機
 浜名湖電装株式会社
 浜名部品工業株式会社
 豊生ブレーキ工業株式会社
 マブチモーター株式会社 他(50音順)

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
 TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
 E-MAIL info@synergy-power.co.jp

自動車業界に精通した ISO 審査で
 環境・品質マネジメントシステムの
 マンネリ化を脱してみませんか？

<http://www.jari-rb.jp/jd>



一般財団法人日本自動車研究所 認証センター
JARI-RB

世界と日本！自動車産業界唯一の総合年鑑

自動車年鑑 2017-2018年版

Automotive Yearbook

自動車産業の総合データ集。自動車産業、自動車社会など自動車に関する主要な動向全般を収録。

本誌は第1号の発行から85年の歴史を持つ自動車産業の総合データ集です。最新版では自動車の生産や販売、保有に関するさまざまな統計データをはじめ、自動車メーカーを中心とした国内外の動向、新型車情報などを収録。国内の各地域に密着した情報を始め、主要団体・企業のトップ交代情報では総勢140人以上のニューリーダーを取り上げています。また、同梱の別冊名簿「The List」はウェブサイトから電子ブック形式でも閲覧できます。



好評発売中

日刊自動車新聞社 共編
一般社団法人日本自動車会議所

定価 21,600円 (2冊組・分売不可)
(本体価格20,000円+税、送料無料)
B5判 約760ページ

主な編集内容

本編

- ◎巻頭企画
「政府、安全運転サポート車の普及を促進」
「間近に迫る自動運転社会の予測と課題」
- ◎2016～2017ニューモデル
- ◎ザ・ニューリーダーズ
- ◎自動車産業日誌
- ◎日本と主要国の自動車産業
- ◎国内自動車販売・サービス
- ◎都道府県の動向
- ◎自動車産業と行政 など

統計・資料編

- ◎日本メーカーの主要経営指標一覧
- ◎役員・経営陣一覧
- ◎国内主要事業所、車種別最終組立工場一覧
- ◎海外主要拠点、出資会社
- ◎新車販売台数推移
- ◎メーカー別中古車登録台数
- ◎国産車ディーラーの概要
- ◎主要国の自動車生産台数
- ◎自動車部品出荷金額の推移
- ◎自動車関係諸税率の概要 など

日刊自動車新聞社 お問合せは ☎03-5777-2308 お申込用 ☎0120-461-490
ファックス

インターネット書店 ～NJD-BOOKS～

URL <http://njd-books.online-store.jp/>

当社発行の出版物をインターネットでお求めいただけます。支払方法もクレジットカード(VISA/MasterCard/JCB)・銀行・郵便局と各種選択できます。ぜひご利用ください。

【申込書】

申込日 平成 年 月 日

自動車年鑑2017-2018年版		冊
〒		
ご住所		
ご社名		
部署名		
ご担当者		
お電話番号		
FAX番号		

請求書添えて、お送りします。

※お見積りにご記入いただいた個人情報は、当社において適切に管理いたします。また当社から商品・サービスに関する各種ご案内がございました。

JAPIA NEWS

2017
11・12
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻722号)

目次

8 巻頭言

総合技術委員会委員長・荒島正副会長(豊田合成取締役会長)

10 特集 参加学生の多くが自動車分野の “ものづくり企業”に高い関心 —全日本 学生フォーミュラ大会—

16 会員企業紹介

愛知皮革工業(名古屋市北区)

18 連載 DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.18

人手不足の現状と課題

日本政策投資銀行

20 工業会業務レポート・スケジュール

26 北米事務所だより Vol.128

—「米国自動車市場に久しぶりの販売減速トレンド」—

27 支部活動レポート

中部支部視察報告 環境部会

29 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト

32 指標・統計

平成29年11月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

IATF16949セミナーは… www.lapj.co.jp まで

ISO教育コンサルティング
株式会社エルエーピー

LAP

ISO

Lead Auditor Project Team

☆講師陣は全て自動車産業界の出身です。☆

大好評! IATF16949規格解説セミナー
IATF16949 内部監査員セミナー
AIAG,コアツール実践2日間セミナー



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

巻頭言

Introduction

『地球温暖化と さらなる技術革新』



一般社団法人日本自動車部品工業会
副会長・荒島 正

[豊田合成株式会社 取締役会長]

今年5月、新たに総合技術委員長を拝命した荒島でございます。どうぞよろしくお願い致します。

昨今、世界各地で異常気象が多発しています。欧州での異常高温と渇水、北米での巨大ハリケーン、日本においても「ゲリラ豪雨」と呼ばれる局地的大雨がもたらす災害が後を絶ちません。特に7月の九州北部、8月には東北地方で豪雨災害、9月には台風18号が日本列島を縦断し、全国各地に甚大な被害をもたらしました。被災された方々へお見舞い申し上げるとともに1日も早い復興をお祈りいたします。

これらの局地的大雨は「観測史上最高」あるいは「50年、100年に1度の雨量」と報道されています。NHKは世界気象機関(WMO)の予測に基づく「2050年の天気予報」という番組を放送しましたが、「大規模な干ばつと猛烈な熱波」、「1年分の降雨が1カ月に集中するような豪雨」、「沿岸部の町の水没」など衝撃的な内容でした。また、温室効果ガスの排出がそのまま増え続ければ、21世紀末までに地球の平均気温は4℃以上高くなるという予測もあります。

「地球温暖化対策」として、一昨年「パリ協定」で「世界的な平均気温上昇を産

業革命以前に比べ2℃より十分低く保つとともに、すべての国が削減目標を作り、目標達成義務はないが達成に向けた対策をとる必要がある」が合意されました。これを受けて日本政府は「温室効果ガスを2013年度比で2030年度▲26%、2050年度▲80%とし、脱炭素社会の実現を目指す」を目標に掲げています。

JAPIAが「第8次環境自主行動計画」で公表した2020年、2030年のCO2削減目標は、政府の「2030年度▲26%」に合致したものです。これまで温室効果ガス削減のために実施してきた「省エネ活動」「生産の効率化」などの継続・拡大で、おそらく目標達成は可能かと思われます。

しかし、「2050年目標▲80%」となると話は別です。従来の取り組みの延長では、とうてい達成できるレベルではありません。近年、太陽光、風力、バイオマス、マイクロ水力発電といった再生可能エネルギーの活用が増えていますが、自動車部品産業を担う製造業としては、それだけで満足する結果を得ることは難しく、新たなイノベーションが不可欠と考えます。

さらに自動車業界は、電気自動車や燃料電池車といった環境対応車の普及に加

え、AIやIoTの融合による自動運転の実現化など「100年に1度」という大変革期を迎えようとしています。

これまで「省エネ」「再生可能エネルギーの活用」「脱炭素社会」は地球温暖化対策やCSRの一環として捉えていた部分もあったかと思います。しかし今後は、企業の生き残りをかけた重要課題という認識で取り組まなければなりません。すでに欧州や中国では、内燃機関の廃止を検討しているとの話もあり、自動車部品産業の姿が将来大きく変わることを示唆しています。

地球規模で考える脱炭素社会の実現、そして自動車業界の「100年に1度の大変革期」に向け、どのようなイノベーションを起こすべきか。明確な回答を出すには、あまりに大きなテーマですが、製品・部品の技術革新はもちろんのこと、開発・設計・製造すべてのプロセスにおいて、さらなる改革が必須となる時代が目前まで迫っています。こうした対応などについて、JAPIAの総合技術委員会で議論を活発に行い、情報発信をしていきたいと考えています。

特集
総論

参加学生の多くが自動車分野の “ものづくり企業”に高い関心

— 全日本 学生フォーミュラ大会 —

自動車技術会（自技会、松本宜之会長）は9月5～9日の5日間、小笠山総合運動公園（エコパ、静岡県掛川市／袋井市）で「第15回全日本 学生フォーミュラ大会」を開催した。学生フォーミュラは、車両の開発能力や走行性能だけでなく、コスト管理能力やプレゼンテーションスキルなど、ものづくりの総合力を競う大会。自動車業界を中心に、日本のものづくりを支える人材を輩出してきた。一方で、自動車に高い関心を持つ学生が多く集まることから、ここ数年は部品メーカーなどの企業からの注目も高まっている。今年も会場には、自社製品を展示して認知度アップを図ろうとする部品メーカーのブースが立ち並んでいた。

マネジメント・コミュニケーション能力 など、総合的なものづくりの技術が必要

全日本 学生フォーミュラ大会は、ものづくりの本質を学ぶ機会を学生たちに提供することで、自動車技術や産業の発展に貢献する人材を育成しようと2003年に始まった。世界各国で開かれている「フォーミュラSAE（自動車技術会）シリーズ」の1大会としても認定されており、世界と同じルールで審査する国際的な競技会でもある。

参加対象となるのは大学生や大学院生、専門学校生。学生らはチームを組んでフォーミュラスタイルのレーシングカーを製作し、競技に挑む。審査基準は走行性能に加えて、車両のコンセプトや設計、デザイン、安全性、コストなど多岐に渡る。動的性能と静的性能の両面が問われるとともに、車両製作にはチームマネジメント能力やコミュニケーション能力も求められるのが大きな特徴となっている。

今回、動力源に内燃機関を用いる「ICVクラス」には83チームがエントリーし、京都工芸繊維大学が2年連続で総合優秀賞1位を勝ち取った。毎年上位に入賞する競合チームは、開発や部品供給でスポンサーとなる企業とのやり取りなど「ノウハウを継承するための教育システムが確立されている」（主催者）という強みがあるようだ。





モーターを動力源とする「EVクラス」には過去最高の15チームがエントリーし、名古屋大学が1位の座を掴んだ。世界の多くの自動車メーカーが電気自動車（EV）の量産や開発を本格化させる中、学生たちのEV関連技術への関心も高まっているようで、EVクラスへのエントリーは増加傾向にある。特に中国などの海外からの参加が目立った。

多数の部品メーカーが協賛、企業ブースを出展している

学生たちが白熱した5日間を過ごす学生フォーミュラ大会は、企業からの関心も高まっている。大会スポンサー企業らが自社製品の展示などを行う「企業PRコーナー」への出展社は、前年比5社増の73社・団体となった。日本自動車部品工業会の会員部品メーカーも33社が出展した。

少子化などによって就職が「売り手市場」に傾く昨今、人材の確保に苦労しているサプライヤーは少なくない。そんな中、BtoB、事業を展開する自動車部品メーカーにとって学生フォーミュラは貴重な学生たちとの接点の場になっている。「学生フォーミュラに参戦している学生たちは自動車の部品には詳しいが、それをどの企業が製造しているかまでは認識していない。話題の新車にも、自分たちの部品が使われていることをもっと知ってもらいたい」—多

くの部品メーカーが語る出展の目的だ。

ゴム関連の部品を手掛ける某サプライヤーは「化学系の学生に比べて、機械工学系の学生たちの認知度が低い。金型や生産技術には機械工学の知識を持った人材が不可欠」と機械工学系に重点的にアピールしているという。デモカーを使って電子ミラーの技術を紹介した部品メーカーは「取り組んでいる最先端の技術を展示して、新たな技術開発にチャレンジできる環境があることをアピールする」と展示物の選定理由を語った。

また、部品の設計や開発支援を手掛ける企業は、フォーミュラカーの車体を展示。アクセルを踏んだ時のエンジン音をスピーカーで聞こえるようにし、学生たちはその迫力に歓声を上げていた。学生らに興味を持ってもらえるよう、各企業は見せ方にもこだわっていた。いずれにしても、認知度を少しでも高めて優秀な人材の確保につなげたいという思いは共通だ。出展ブースには、現役のエンジニアを派遣する企業





も多い。エンジンオイルの特性やサスペンションの調整方法など、来年以降の学生フォーミュラ大会に向けて技術的な相談も受けられるようにしている。また、学生たちと年齢に近い若手社員を配置するケースが多いようで、部品を開発する手順や、部品メーカーで働くイメージを学生たちに伝えていた。

過去の大会に参加したOBが軸となり、運営をサポート

ブースという形で多くの企業が学生にアピールする一方で、自動車メーカーや部品メーカーの社員が活躍する場もある。大会の審査員や運営サポートだ。

学生フォーミュラ大会は、現役のエンジニアらのボランティアによって支えられている。大会が14年前に始まったことから、卒業生たちが審査員や運営のサポートとして大会に戻ってくことも多い。ただ、それは単なる大会への「恩返し」とは限らず、「毎日、自動車のことを一生懸命考えたり、研究している学生たちから、逆に教えてもらうこともある」（審査員経験者）という。新たな技術開発につながる「気づき」が学生たちとの交流の中で生まれることもあるようだ。熱心な学生たちが集結する学生フォーミュラ大会。この絶好の場を自動車関連企業が活用しない手はない。

全日本 学生フォーミュラ大会に参加する学生のうち、97%が自動車業界への就職に関心一。

日本自動車部品工業会（部工会）と日刊自動車新聞社は「第15回全日本 学生フォーミュラ大会」の会場で、参加学生を対象にアンケートを実施した。それによると、参加学生のうち57・6%が自動車業界を「志望している」、39・4%が「興味・関心がある」と回答。特に業界の中でも自動車メーカーや部品メーカーなど、ものづくりの企業への高い関心がうかがえた。

自動車業界を就職分野の主軸に置く学生の比率は圧倒的に高い

同調査は部工会と日刊自動車新聞社が毎年、大会会場で実施している。今年は大会3～5日目の計3日間にわたって行った。アンケートの有効回答数は165人で、このうち160人（97%）が自動車産業への就職に関心を持っているという結果となった。内訳では「志望している」との回答が昨年比6・6ポイント減、「興味・関心がある」が6・4ポイント増と比率は変化しているものの、大半の学生が自動車業界を就職先として検討していることに変化はない模様だ。

「志望している」「興味・関心がある」との回答者のうち、「自動車メーカーを志望している」のは昨年比5・4ポイント減の50・3%、「自動車部品メーカーを志望している」のが同比2・4ポ

イント減の15・8%だった。一方で「自動車メーカーと部品メーカーのどちらも志望している」という回答は同比2・3ポイント増の18・8%で、視野を広げて就職先を探す学生が増えていることが分かる。

自動車部品メーカーの志望者のうち、「志望先が決まっている」と回答したのは同比1・2ポイント減の8・5%、「まだ決めていない」という回答が4・6ポイント増の23・9%だった。部品メーカーに期待することや、求めていることでは「技術的な説明を聞く機会」「インターンシップの実施」など、就職活動への希望の声も多くある一方で「(技術的な)ユニーク性」「ガソリン車の部品開発」「走りを楽しめる部品」といった部品技術を重視している意見もみられた。

先輩社員の話や企業訪問を通じて職場の雰囲気を確かめたい

就職先の情報源で重視する項目では「先生や

先輩、知人」という選択肢への回答率が62・5%と最も高く、人を介した情報は学生にとって信頼性が高いものと言えそう。次いで「学校への求人情報」が45・5%で高かった。また、昨年より6・3ポイント回答率が上がったのが「企業訪問」だった。

強くこだわる企業の条件では、「仕事の内容」との回答率が同比12・7ポイント増で最も高かった。昨年トップの回答率だった「給与・待遇面」は2・4ポイント減の53・9%。より自分が携わる開発や研究、生産の中身を重視する学生が増えている。就職の情報源として企業訪問を重視する学生が増えたように、実際に社員が働く現場や雰囲気を伝えることが志望者を増やすカギになっているのかもしれない。

「部工会会長賞を新設」

全日本 学生フォーミュラ大会に対する支援強化を図るため、表彰部門に「日本自動車部品工業会（部工会）会長賞」が新設された。さまざまな側面から“ものづくり”に関する技術力を総合的に評価し、高いポイントを獲得した参加チームを称えとともに、自動車部品業界の認知度向上につなげることを狙いとしている。

審査基準は、1周約1千メートルの専用コースを20周走行してタイムなどを競う「エンデュランス」を完走したチームのうち、マシンの製作コスト、軽量化技術、プレゼンテーションの合計得点が最も高いチームを選ぶという方法で、表彰チームには賞金などを授与する。創設後初の今大会では、総合優勝にも輝いた京都工芸繊維大学が同賞を勝ち取った。

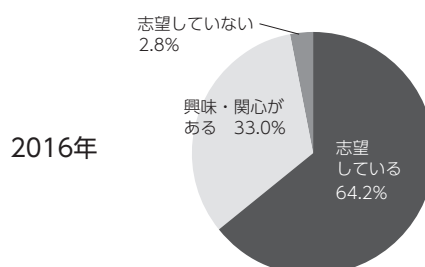
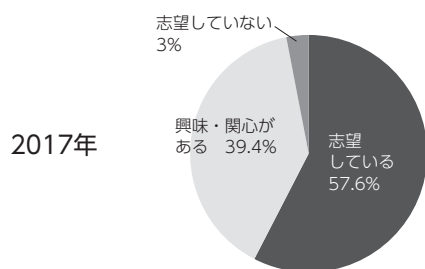
表彰式では、部工会の大下政司専務理事がプレゼンターとして登壇し、チームリーダーの野淵頌平さんにトロフィーや賞金目録を手渡した。同会では、「各チームの車両製作に多くの部品メーカーが関わっていることや、部品メーカーをもっと知ってもらいたいこともあり、このたびの部工会会長賞を創設した。これからも自分たちのクルマ作りに情熱を注ぐ学生を支援していきたい」(部工会事務局)としている。



「全日本 学生フォーミュラ大会」来場学生に対する 就職アンケート調査の結果

Q.1

就職先として自動車業界を志望していますか



	2017年	構成比	2016年	構成比
志望している	95	57.6	113	64.2
興味・関心がある	65	39.4	58	33
志望していない	5	3	5	2.8
合計	165	100	176	100

(構成比の母数：2017年 = 160、2016年 = 171)

	2017年	構成比	2016年	構成比
自動車メーカー	83	50.3	98	55.7
自動車部品メーカー	26	15.8	32	18.2
自動車メーカー+部品メーカー	31	18.8	29	16.5
自動車ディーラー	4	2.4	7	4
その他（複数回答含む）	16	9.7	5	2.8
合計	160	97	171	97.2

内訳 【志望している】

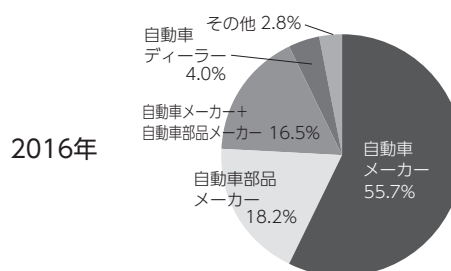
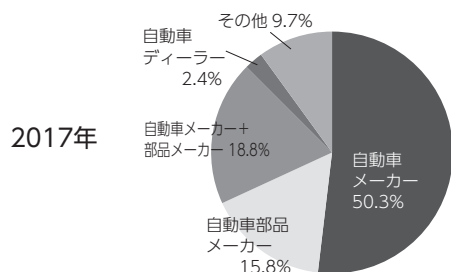
	2017年	構成比	2016年	構成比
自動車メーカー	50	30.3	66	37.5
自動車部品メーカー	11	6.7	17	9.7
自動車メーカー+部品メーカー	21	12.7	19	10.8
自動車ディーラー	3	1.8	7	4
その他（複数回答含む）	10	6.1	4	2.3
合計	95	57.6	113	64.2

【興味・関心がある】

	2017年	構成比	2016年	構成比
自動車メーカー	33	20	32	18.2
自動車部品メーカー	15	9.1	15	8.5
自動車メーカー+部品メーカー	10	6.1	10	5.7
自動車ディーラー	1	0.6	0	0
その他（複数回答含む）	6	3.6	1	0.6
合計	65	39.4	58	33

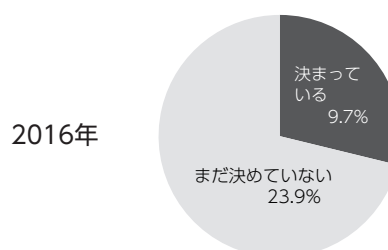
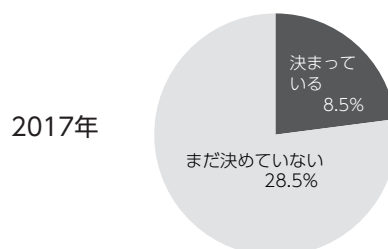
Q.2

志望している、興味・関心がある方は、
どの分野を希望していますか



Q.3

自動車部品メーカーで、どのような分野に
進みたいか決めていますか



(構成比の母数：2017年＝165、2016年＝176)

	2017年	構成比	2016年	構成比
決まっている	14	8.5	17	9.7
まだ決めていない	47	28.5	42	23.9

Q.4 自動車部品メーカーに期待することや求めていること

就職関係

- 残業の減少
- 技術的な説明を聞く機会
- インターンシップの実施
- 企業のPR力・知名度
- 地味なイメージの払しょく
- 大手取引先への依存
- 製品に触れられる場
- 働きやすさ
- 有力な特許を持つ強み
- 自由な開発環境

就職関係以外

- 部品性能の向上
- 走行安定性への貢献
- 低価格化
- ユニーク性（大胆な発想）
- 新技術
- 防錆性能
- 安心・信頼
- ガソリン車の部品開発
- 学生フォーミュラの支援
- チャレンジ精神
- 精度
- 環境性能
- カスタマイズ対応
- 部品規格の共通化
- メンテナンス性の改善
- 世界トップの技術
- 走りを楽しめる部品
- ロータリーエンジン復活
- 顧客本位の技術開発

Q.5 就職先を選ぶ情報源として重要な項目は

(回答率の母数：2017年＝165、2016年＝176)

	2017年	回答率	2016年	回答率
先生や先輩、知人	103	62.4	116	65.9
学校への求人情報	75	45.5	97	55.1
求人サイト活用	27	16.4	30	17
インターネット検索	55	33.3	63	35.8
雑誌、新聞など	13	7.9	14	8
企業訪問	62	37.6	55	31.3
就職セミナーなど	49	29.7	40	22.7
その他	5	3	2	1.1
合計	389	235.8	417	236.9

Q.6 就職先として強くこだわる企業の条件とは

(回答率の母数：2017年＝165、2016年＝176)

	2017年	回答率	2016年	回答率
給与・待遇面	89	53.9	99	56.3
認知度の高さ	17	10.3	21	11.9
企業規模（売上高・利益・社員数）	32	19.4	37	21
将来性	82	49.7	90	51.1
社風・風土・経営理念	57	34.5	55	31.3
企業及びトップの考え方	26	15.8	36	20.5
取扱商品	22	13.3	27	15.3
仕事の内容	110	66.7	95	54
その他	3	1.8	1	0.6
合計	438	265.4	461	262

「森川広報部会長が視察」

森川典子広報部会長（ボッシュ取締役副社長）は大会4日目の9月8日、学生フォーミュラ大会の会場を訪れ、競技の模様や出展ブースを視察。部品メーカー各社の企業PRテントに集まった学生らに直接話しかけ、就職活動の参考になっている様子などを確かめた。

企業テントのほか、実際にマシンの調整を行っているチームビット、エンデュランス走行の競技会場などを訪問した。部工会が出展したブースでは、就職に関するアンケートの実施風景を確認。森川部会長は、「現地に行ってみて感じたことは、直接学生と話ができるので採用につなげるいい機会。また、学生たちのクルマづくりに懸ける情熱に感動した」と感想を述べている。



優れた裁縫技術で 高い意匠性を実現

手作りならではの豊かさを提供

伊藤康之社長



会社プロフィール



豊田工場

本社・本社工場
資本金
従業員
生産拠点

〒462-0843 愛知県名古屋市北区田幡2-16-2
7400 万円
連結約 720 人
豊田工場（愛知県豊田市）・守山工場（愛知県尾張旭市）・
藤岡工場（愛知県豊田市） 関連会社：愛美産業（福井県
美浜町）・愛知皮革高知（高知県南国市） 中国拠点：愛
知皮革（上海）・タイ拠点：アイチ・アルプス・オートレザー
取締役社長 伊藤康之

代 表 者

自動車用内装部品の高付加価値に貢献

中部地区の独立系自動車部品メーカーの愛知皮革工業は、自動車向け皮革加工部品を主力に手掛ける。愛知県名物の「あんまき」から着想を得て開発した革製キーケースの製造をきっかけに、1950年以来、トヨタ自動車の協力会社として事業展開を進めてきた。現在では、革巻きのステアリングホイールやシフトノブなど、人の手に触れる部位に高品質の皮革加工を施し、内装部品の付加価値向上に貢献している。2016年度の売上高は113億円で、このうちステアリングホイールが60%、シフトブーツが15%、シフトノブが10%を占める。主要取引先はトヨタ自動車を始めとした関連会社で、最終的に製品全体の8割がトヨタ自動車に納入される。これまでにレクサス車やランドクルーザーといった上級車へ主に採用されている。

生産拠点は、愛知県内には本社以外に3工場と関連会社のある福井県と高知県で1拠点ずつ展開する。海外では中国とタイにそれぞ

れ1工場持つ。売上高のうち8割が国内、残りの2割を海外が占める。最近では、自動車生産台数の増加に伴い、中国での引き合いが増えていることから、アジア地域で拠点数を増やすことも検討しているという。

手作業で高品質を維持

伊藤康之社長は「当社の部品は人に豊かさや高級感を与えることができる」と語り、外観や手触りを重視する。部品製造をする上で最もこだわるのは、ほとんどの工程を手作業で行うことだ。革の裁断に機械を使用するが、革すきや縫製、検査といった大部分の工程は作業員が担う。部品に用いる材料の大半は天然皮革であり、製品ごとの仕上がりや完成度には微妙なずれが生じる。プレス機で一発成形してしまうとそのずれを調整するのが難しく、しわが発生することがあるため、作業員による細かな調整が必要となる。トヨタの新開発思想TNGA（トヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー）など、自動車部品



革巻きシフトノブ



主力製品の革巻きステアリングホイール



手作業により高品質を維持している

の共通化が進む中でも、内装部品は差別化要因の一つとして、デザイン性が求められ、高い意匠性を実現するためにも作業員の技が不可欠となる。

国内外の拠点で安定した加工品質を維持するためにも、作業員の教育が欠かせない。マザー工場と位置付ける豊田工場（愛知県豊田市）では、熟練の作業員による直接指導の下、実際にミシンを使い裁縫技術を学ぶ。技術の習得期間は早い人で1カ月、平均すると3カ月程度かかるという。

原材料の加工から見直し、コスト競争力を強化

伊藤社長は同社を取り巻く経営環境について「今後さらに厳しくなる」と予想する。得意とする付加価値の高い製品に対してコスト要求が高くなっており、デザインとコストの両立が求められる。加えて、これまで自動車向け皮革加工の分野には参入するライバルメーカーも少なく、ニッチな分野として日本とアジア地域で事業を拡大してきた。しかし、最近では欧州の競合メーカーが中国をはじめ、

アジア地域で台頭しており、品質レベルも高くなっている。

コスト競争力を高めるため、愛知皮革工業は14年からタイ拠点で材料自体の加工費を見直す取り組みを始めた。これまでは、最終組み付けに使用できる状態の革を購入していたが、新たにタイに皮革の塗装工場を設置。鞣（なめ）し工程までが終了した状態の革を購入し、革の硬さ・厚みといった客先ごとの細かい要求に対する調整や塗装は自社で行える体制を整えた。川上から川下までを自社で一貫して製造することで、工程間で問題が発生した際にも迅速に対応でき、コスト低減にもつながる。

グローバルで進む車の電動化シフトや自動運転技術の進展により、将来的にはシフトレバーやハンドルといった現在主力とする製品の需要が減る可能性がある。ただ、今後も車の内装部品には本革は使われるとして「付加価値の高いものをいかに良品廉価で納めるかを追求する」（同）方針で、国内外の拠点では手作業による部品製造を維持する考えだ。

人手不足の現状と今後の課題

高齢化と景気回復が進む中、人手不足感が強まっており、労働集約的な非製造業、特にサービス業で深刻になっている。企業規模別では、待遇面で劣ることも多い中小企業で不足感が強く、人手不足による倒産例も報じられている。

一方で、労働供給が減少しているわけではない。図1は、就労意欲のある人の数を示す労働力人口（労働供給）と、労働力人口が15歳以上人口に占める割合である労働参加率の推移をみたものである。15歳以上人口は2012年頃からはほぼ横ばいとなっているが、労働参加率は、パート労働者の増加など、働き方の多様化を伴いながら、高齢者や女性を中心に上昇を続けた。そのため、両者のかけ算で求められる労働力人口は13年以降増加してきた。17年、18年についても、高齢者や女性の労働参加が当面進むとの想定のもとで、労働力人口は増加することが予想される。

しかし、高齢化の進行や15歳以上人口の減少により、労働力人口は18年頃をピークに減少に転じる見込みである。仮に女性の労働参加が一段と進むケースを想定すると、全体の労働参加率もいくらか上昇するが、その場合でも、労働力人口の減少は避けられない。従って、人手不足の問題は今後ますます深刻化し、経済成長の足かせとなる懸念がある。

ここで、人手不足など、労働市場の構造変化が、経済成長にどのような影響を与えるかをみてみよう。図2では、人口変動の影響を除く経済成長の指標として、一人当たりGDP（国内総生産）の伸びを要因分解している。これによれば、高齢化は生産年齢人口（15歳～64歳の人口）が人口全体に占める割合の低下を通じて一人当たりGDPを押し下げているほか、パート労働の増加による労働時間の減少も、下押し要因になっている。また、前述の通り、近年は

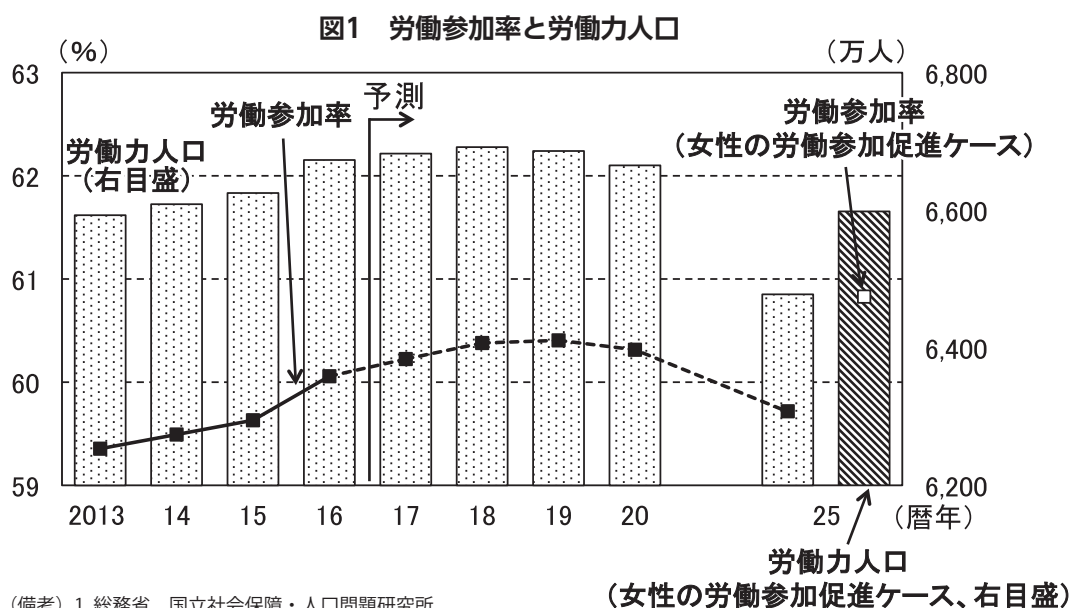
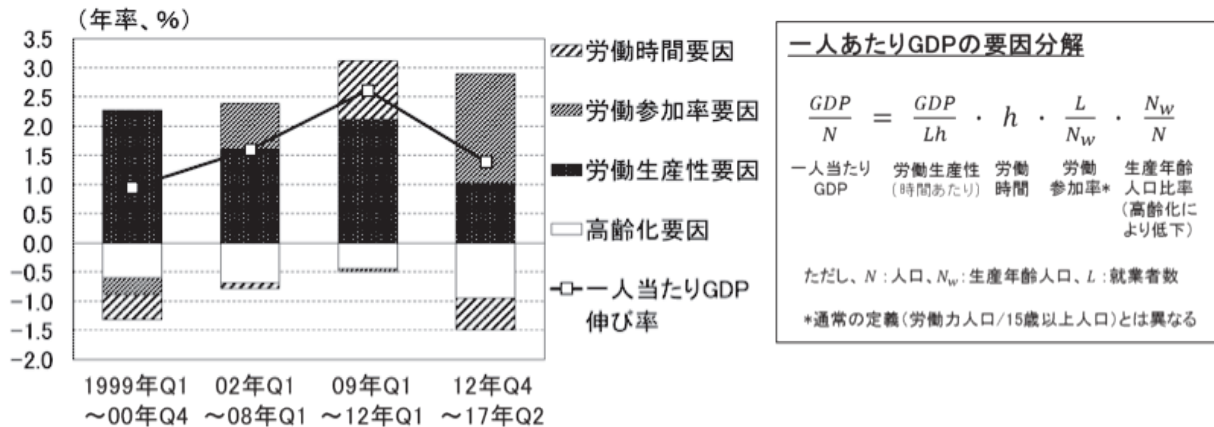


図2 景気回復局面における一人当たりGDPの増加の寄与分解



（備考）1. 内閣府、総務省、厚生労働省 2. 景気変動の影響を除くため、景気回復局面に限って比較

労働参加が進展し、それが経済成長の押し上げ要因となったが、労働生産性の伸びが鈍化しているため、一人当たりGDPの伸び率は、年率1.5%程度にとどまっている。

今後について考えると、高齢化の進行は、引き続き一人当たりGDPの押し下げ要因となるとみられるほか、長時間労働が社会問題になったことなどを受け、企業が残業時間の削減に取り組むことで、労働時間も減少が継続と予想される。さらに、前述の通り、労働参加は今後頭打ちとなる見通しであるため、労働参加率要因による押し上げも見込めない。このように、今後労働市場をとりまく環境は、いずれも成長を阻害する方向に作用すると考えられる。そこで、経済成長を押し上げるためには、残る一つの要因であり、近年伸びが鈍化している労働生産性の底上げが急務となる。

それでは、労働生産性はどのように高めることができるのだろうか。労働生産性は、様々な要因で変動するが、労働に関しては人的資本の強化など、質の改善が重要とされる。実は、労働の質を計測した指標は、高学歴化などを反映してこれまでも上昇している。ただし、今後必要なのは、人手不足が顕著となっているIT技

術者や医療・介護など、求められる分野に応じた人材の教育、訓練である。高等教育とともに、企業内教育や、企業外の社会人教育（いわゆる「リカレント教育」）などを通じた労働力の質向上が重要であると考えられる。

また、労働生産性改善には、労働力の適切な配分も課題になる。足元では、企業の求人が増加したにもかかわらず、転職が活発化する動きが限られているほか、国際比較においても、日本の雇用の流動性は高くないと指摘されている。雇用の流動性が低い中で、企業は新卒採用を強化しているが、同時に企業内でも正規・非正規、部門間などで労働力を適切に配置し、既存の労働者を有効活用することは、個々の企業だけでなく高齢化が進む日本経済にとって重要な課題といえる。

以上のように、人手不足は、今後労働力人口の減少が避けられない中で一層深刻化すると考えられ、高齢化や労働時間減少とともに、経済成長を抑制する要因となる。このような状況を打破し、経済成長を持続させるためには、労働の質向上や適正配分を通じた労働生産性向上が不可欠になるといえるだろう。

工業会業務レポート

委員会活動

総務部

●業務報告〔8/16～10/15〕

9月19日 編集企画会議 JAPIA NEWS 特集企画案について検討 部品会館

●行事予定〔11/16～1/15〕

12月15日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 各委員長報告 他 名古屋東急ホテル

業務部

●業務報告〔8/16～10/15〕

8月21日 税制部会 ・自動車関係諸税の見直しに係る課題と自動車業界の今後の活動について説明を行った。テーマ：自動車関係諸税の見直しに向けた自動車業界の取り組みについて 説明者：一般社団法人日本自動車会議所 常務理事 畠山太作様、広報・渉外部長 田村里志様 ・平成29年度税制改正要望結果及び平成30年度税制改正要望（案）について検討を行った。 部品会館

8月22日 旧型補給部品WG ・旧型補給部品WGの活動内容についての検討を行った。 ・自工会への問合せ結果（品番廃止情報の展開）について検討を行った。 ・経産省に、旧型補給部品WGの活動内容・検討結果について説明を行った。 機械振興会館

8月23日 調達・生産部会 ・取引適正化に関する政府等の動向について経産省から説明を行った。説明者：経済産業省製造産業局自動車課 課長補佐 太田保光様 ・自主行動計画/自動車産業適正取引ガイドラインのフォローアップ調査の実施について検討を行った。・取引適正化に係るセミナー等の実施について報告を行った。 部品会館

8月24日 経営調査部会 ・2017年度第1四半期の自動車部品工業の経営動向の取りまとめについて検討を行った。 ・自動車産業の業界動向について講演を行った。講師：大和証券(株) 企業調査部 次長 シニアアナリスト 坂牧 史郎様 部品会館

8月25日 総務委員会運営幹事会 ・9月7日の総務委員会の運営について検討を行った。 部品会館

9月7日 総務委員会 ・平成30年度税制改正要望（案）について検討を行った。 ・2017年度第1四半期の自動車部品工業の経営動向について報告を行った。 部品会館

9月16日 BIKE LOVE FORUM in 群馬・前橋 「バイクで広がる人・社会」をテーマに、二輪車の振興策について、取り組み状況の発表や市場活性化策の議論を行った。 前橋テルサ

9月22日 旧型補給部品WG ・先進企業取り組み事例の紹介及び質疑応答を行った。 ・次回WGでのフロー、チェックリスト、マニュアル作成上の課題の取りまとめ及び、現在の補給部品制度の問題点の紹介等について検討を行った。 駐健保会館

9月26日 中小企業施策委員会 生産性・付加価値向上等支援活動（第1回） IOTを導入して生産性向上に取

組んでいるジェイテクト刈谷工場の見学と、取引先（中小企業）での取組事例（導入方法と効果）の紹介を行った。 (株)ジェイテクト 刈谷工場

9月29日 総務委員会工場見学会 多様な省エネの取り組みや、中・小型のショベル・ホイールローダー・ブルドーザー等の多種多様な生産品目に対応してフレキシブルな生産を行なっているコマツ(株) 粟津工場の見学を行った。 コマツ(株) 粟津工場

10月4日 BCP（事業継続計画）演習（東京） 地震が発生した場合を想定した事業継続計画の演習を開催した。講師：SOMPOリスクアマネジメント(株) リスクマネジメント事業本部コンサルタント 損保ジャパン日本興亜（株）本社ビル

10月5日 コンプライアンスWG ・WGでとりあげるテーマの優先順について検討を行った。 ・競争法遵守の手引き作成に関する項目整理について検討を行った。 部品会館

10月6日 ガイドラインセミナー（太田） 中小事業者のための自動車産業適正取引ガイドラインセミナーを開催した。テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：中小企業診断士・社会保険労務士 七田 亘様 浜町勤労会館

10月13日 紛争鉱物規制対応WG ・各社における「今回の紛争鉱物調査、集計に関する課題」について検討を行った。 ・懸念するスメルター（精錬業者）に関する情報提供を行った。 部品会館

●行事予定〔11/16～1/15〕

11月24日 総務委員会運営幹事会 島根富士通

11月27日 経営調査部会 部品会館

11月27日 自動車総連とのトップ懇談会 赤坂

11月28日 BCP（事業継続計画）演習（東京） 損保ジャパン日本興亜（株）本社ビル

11月29日 経営調査部会講演会（東京） 駐健保会館

11月29日 経営調査部会講演会（名古屋） 名古屋栄ビル

11月30日 調達・生産部会と素材材団体との懇談会 くるまプラザ

12月6日 総務委員会と自工会調達委員会との懇談会 くるまプラザ
12月12日 ガイドラインセミナー（浜松） アクトシティ浜松研修交流センター

12月13日 ガイドラインセミナー（名古屋） TAC名古屋校

12月15日 中小企業施策委員会 名古屋

国際部

●業務報告〔8/16～10/15〕

8月29日 FTA・通商部会 1.最近の通商動向 2.本年度事業の進捗 3.EPA取り組み事例研究 カルソニックカンセイ(株) 部品会館

9月8日 初級～中級者向け知的財産講座 1.知財権利化 2.海外進出全般 3.契約 4.技術流出防止 5.その他 講師 独) 工業所有権情報・研修館 海外知的財産プロデューサー 久永 道夫氏 バルサール六本木コンファレンスセンター

10月5日 国際委員会 1.最近の情勢について 2.上期事業報告 3.本年度事業の進捗 4.中国研究会 講演 (株)デンソー 顧問 山田 昇氏 部品会館

10月13日 知財講演会～知財が利益を生み出すための「条件」

と「仕組み」作り、その一環としての「職務発明」への取り組み方～ 1.職務発明とは 2.JAPIA会員アンケート結果から 3.より重要なことは＜知財が活きる必要条件＞、＜知財活用の「仕組み」＞ 4.明日からやるべきこと 5.質疑応答 弁護士 法人キャスト パートナー 弁護士・弁理士 島田 敏史氏 くるまプラザ

●行事予定【11/16～1/15】

- 11月20日 FTA・通商部会 1.最近の通商動向 2.本年度事業の進捗 3.EPA取り組み事例研究 日本特殊陶業(株) 部品会館
- 11月29日～12月2日 オートメカニカ上海2017における反模倣品の啓発活動 1.参加各社の真贋サンプル展示およびプレゼンテーション実施 2.正規品取扱い店情報の提供 3.アンケートによる来場者の模倣品購入傾向把握 上海市
- 12月3日～5日 中国公的機関への模倣品摘発要請活動 1.江蘇省南京市、同無錫市、同蘇州市の各税関等への真贋判定セミナーの実施 江蘇省
- 12月7日 国際委員会 1.最近の情勢について 2.本年度事業の進捗 3.EU&ブレグジット研究会 講演 経済産業省 通商戦略室長 福永 哲郎氏 部品会館
- 12月中旬 海外赴任前講習会「タイ」 1.タイにおける安全対策 2.タイの医療事情・準備とリスク 3.他 部品会館
- 1月12日 JAMA知財部会との品質相当部品意見交換会 メインパネリスト 弁護士法人キャスト パートナー 弁護士・弁理士 島田 敏史氏 部品会館

関東支部

●業務報告【8/16～10/15】

- 9月11日 経営研究会講演会 テーマ「ISO 9001:2015年版、ISO 14001:2015年版移行審査におけるトピックインタビュー対策研修」講師：(一社)日本能率協会 主任講師 EMS主任審査員 (CEAR) 全能連認定マネジメント・インストラクター 中川 優様 経団連会館
- 9月21日 自動車産業視察団参加者説明会 自動車部品会館
- 9月30日～10月7日 ドイツ/チェコ自動車産業視察 ドイツ、チェコ

●行事予定【11/16～1/15】

- 11月22日 拡大運営委員会・講演会 八芳園
- 12月8日 第5回企画部会 (株)マーレ フィルターシステムズ九州工場

中部支部

●業務報告【8/16～10/15】

- 8月24～25日 ISO14001:2015 内部監査員2日間セミナー 刈谷市
- 8月29日 講演会(環境部会)「国内とアジアにおける土壌規制について」 DOWAエコシステム(株) 名古屋栄ビル
- 8月30～31日 AIAG コアツール実践2日間セミナー 刈谷市
- 9月5日 講演会(中小企業部会)「世界の電動車両の将来」(株)フォーイン 社長 久保鉄男氏 名古屋栄ビル
- 9月13日 結団式 欧州自動車産業視察結団式 名古屋市内
- 9月21～22日 ISO9001:2015 内部監査員2日間セミナー 刈谷市

- 9月21～29日 欧州自動車産業視察 ドイツ・フランス
- 9月28～29日 IATF16949:2016 内部監査員養成研修 刈谷市
- 10月2～3日 IATF16949:2016 内部監査員2日間セミナー(株)自動車部品会館 名古屋栄ビル
- 10月12日 局長講演会「中部地域の産業の展望と課題」 中部経済産業局 局長 富吉賢一氏 名古屋市内
- 10月13日 優良企業工場見学会(中小企業部会) エクセディ 大阪府寝屋川市

●行事予定【11/16～1/15】

- 11月13～15日 中小企業大学校瀬戸校研修会「コスト削減のための在庫管理」 中小企業大学校瀬戸校
- 11月21日 講演会(中小企業部会)「モビリティ革命2030～自動車産業の破壊と創造～」デロイト トーマツ コンサルティング 執行役員 田中義崇氏 名古屋栄ビル
- 11月24日 環境保全に関する講演会・事例発表会「キャノンの環境経営」キャノン(株)「HONDAのFCV開発と水素社会への取り組み」(株)本田技術研究所 事例発表会(13事例) 名古屋市工業研究所
- 12月5日 第2回運営委員会 上期事業・決算報告 名古屋市内
- 12月12日 海外視察報告会 名古屋市内市

関西支部

●業務報告【8/16～10/15】

- 8月25日 技術分科会 勉強会・情報交換会「ドローン前提社会の未来像」慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特任講師 高橋伸太郎氏 京都大学百周年時計台記念館 会議室IV
- 8月28日 総務分科会 勉強会・工場見学会「会員企業トップによる会社および会社経営についてのご説明」「アステア様で扱われている大型自動車用部品の工場内物流や損傷防止策」「3Sの管理上の工夫点」(株)アステア 代表取締役会長 水松幹夫氏 (株)アステア
- 9月8日 生産分科会 委員会・工場見学会 三和パッキング工業(株) 本社工場
- 9月15日～9月22日 経営研修会 欧州視察 フランクフルト・モーターショー、ハンガリー政府投資局、JETRO、マジャールズズキ、Femalk、Ibiden、ZF、タカタ
- 10月13日 技術分科会 講演会・名刺交換会・懇親会「日産ノート e-POWERの開発」日産自動車(株) パワートレイン技術開発本部 主幹 仲田直樹氏「自動車の将来」日産自動車(株) 企画・先行技術開発本部 シニアエンジニア 酒井雄揮志氏 ホテルモントレ京都

●行事予定【11/16～1/15】

- 11月17日 第3回正副支部長会 第2回運営委員会 情報交換会 講演会 懇親会 オリエンタルホテル広島
- 11月22日 生産分科会 工場見学会 倉敷化工(株)
- 12月5日 総務分科会 勉強会・工場見学会 リョービ(株) 本社
- 1月10日 平成30年度十団体共催新年賀詞交歓会 ホテル阪神

技術関係委員会等の開催状況 (8/16～10/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
9月28日	ITS部会 幹事会	自動車部品会館	1) ITS世界会議モントリオール2017について
	SIP-adus報告会	自動車部品会館	1) 内閣府SIP-adusについて
10月4日	平成29年度第2回総合技術委員会	自動車部品会館	1) METI報告 2) 環境問題への対応について 3) 電子情報化への対応について 4) 基準・認証制度への対応について 5) ITS部会 活動報告 6) 環境対応委員会 活動報告
10月11日	総合技術委員会 幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会審議内容等について 2) 部工会技術組織の改組について

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
9月6日	基準認証部会 ASEAN-WG	自動車部品会館	1) JASIC官民フォーラムWG結果 2) JAPIA プレゼン内容骨子検討
9月11日	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) ミッション計画について 2) JASIC CATARCフォーラム報告
10月2日	基準認証部会 インドWG	自動車部品会館	1) 9/13開催 JASIC CIK分科会報告 2) インド認証/技術要件 課題点抽出対応
10月13日	基準認証部会	コンファレンスプラザ大阪御堂筋	1) 各活動WGの状況報告 2) 各連絡WGの状況報告 3) JASIC情報

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月25日	DE促進部会 幹事会	自動車部品会館	1) 活動日程確認と前回宿題確認 2) 上位委員会・幹事会、JAMA等の情報共有 3) WG活動に関する問題と展開事項の確認 4) 部会での通達内容確認
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) 情報共有活動
9月7日	EDI部会	自動車部品会館	1) 5月のベルリン出張報告 2) 活動進捗状況共有 3) IT対応委員会報告内容
9月13日	IT対応委員会 幹事会	自動車部品会館	1) 5月のOdette Conferenceの状況共有 2) 活動進捗状況共有 3) IT対応委員会報告内容
9月20日	IT対応委員会	自動車部品会館	1) 平成29年度活動進捗状況報告
9月21日	NX研究会	シーメンス(新宿)	1) 実機検証について
9月22日	DE促進部会 幹事会	自動車部品会館	1) 活動日程確認と前回宿題確認 2) 上位委員会・幹事会、JAMA等の情報共有 3) WG活動に関する問題と展開事項の確認 4) 部会での通達内容確認
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) WG活動

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月30日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 自工会・製品化学物質管理部会・報告 2) 自工会・個別物質分科会・報告 3) 物質調査の進め方・相談
8月31日 ～9月1日	製品環境部会 幹事会	岡山	1) 自工会・製品化学物質管理部会 報告 2) 自工会・個別物質分科会 報告 3) 物質調査説明会の進め方・議論 4) タイ・インドネシア出張 報告
9月7日	生産環境部会	自動車部品会館	1) 各分科会の本年度活動状況の報告審議 2) 環境対応委員会報告事項
	環境対応委員会 幹事会	自動車部品会館	1) 委員会、各部会・分科会の本年度活動 状況報告・審議
9月8日	LCA分科会 統合ツールWG	自動車部品会館	1) 統合ツール仕様について
	LCA分科会 使用段階負荷標準化WG	自動車部品会館	1) WG体制と活動状況 2) 各社製品におけるシステム境界の確認
9月12日	工場用化学物質分科会 入口管理G	自動車部品会館	1) 全体計画の修正 2) ラベルとSDSの対応のガイダンスの見直し 3) 仕入先提供情報の社内管理への活用
	工場用化学物質分科会 法規制調査G	自動車部品会館	1) 各国法規制定・改訂情報収集 2) 2016年度の変化点 反映 3) 対象国の見直し
	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) 入口管理G報告 2) 法規制調査G報告 3) GLAPSG報告
	鉛規制対応分科会 幹事会	自動車部品会館	1) 最新状況の共有 2) 個別除外アイテムの対応 3) 今後の進め方
9月13日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) JAMAシートVer2.50 レビュー結果 2) GADSL 8月改正内容解説 3) JAMAシート 2018年度改正 意見集約 結果報告 4) IMDS渉外関係情報紹介
	物質調査システム分科会	自動車部品会館	1) JAMAシート 2.50 レビュー結果報告 2) GADSL8月改正内容解説 3) JAMAシート 2018年度改正 意見集約 結果報告
9月19日	製品環境部会 幹事会	自動車部品会館	1) 部工会・総合技術委員会・報告内容紹介 2) 自工会・物質リスト検討分科会・報告 3) 自工会・製品化学物質管理部会・報告
9月20日	環境保全分科会	自動車部品会館	1) 2017年度の活動計画・実績について 2) 2017年度の取り組みについて
9月21日	温暖化防止推進分科会 省エネ事例・情報展開TF	自動車部品会館	1) 見学会の開催について 2) H29関東地区省エネ事例の内容確認状況について 3) 海外法規改正の展開について
9月22日	渉外担当幹事会	品川インターシティ	1) 部工会関連会議体出席報告 2) 次回の総合技術委員会でのスピーチの件
	製品環境部会	品川インターシティ	1) 部工会・総合技術委員会・報告内容紹介 2) 自工会・物質リスト検討分科会・報告 3) 自工会・製品化学物質管理部会・報告
9月26日	環境対応委員会	自動車部品会館	1) 環境対応委員会 関連会議経過報告 2) 各部会・LCA分科会の今年度活動状況および課題討議等 3) 事務局情報
9月27日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規制の動向 2) 物質精査活動 3) 自工会情報
9月28日	化学物質規制対応分科会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 個別物質の情報 3) 欧州情報 4) 自工会情報

10月5日	LCA分科会 将来検討TF	刈谷市産業振興センター	1) 使用段階LCI算出ツールの今後の活動 2) 統合ツールの開発
10月6日	LCA分科会 統合ツールWG	自動車部品会館	1) 統合ツールの機能案について
	LCA分科会 製造+使用段階 負荷標準化WG	自動車部品会館	1) システム境界の製造+使用段階共通定義リスト点検 2) 製品別の標準 データ設定、方針と考え方の議論

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
8月25日	クッション性分科会	自動車部品会館	1) 高山リード シート技術研究発表会データ検討 2) 次回見学会について
	濾器技術部会	自動車部品会館	1) ISO/TC22/SC34/WG1状況 2) ISO/TC22/SC34/WG3状況 3) ISO/TC22/SC34/WG11状況 4) ISO/TC70/SC7状況
8月28日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2018年度版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
9月1日	シート部会	自動車部品会館	1) 第19回シート技術研究発表会 開催準備
9月7日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認 2) 第6回ISO国際会議アクションアイテム対応審議 3) 2017-2018年度標準化調査内容検討
	エアバッグ分科会 CE-WG	安保ホール（名古屋）	1) 旧CE指令許可品に対するラベルに関するNBフォーラム結果共有
	シートベルト分科会 R16マ ネキン精度向上TF	安保ホール（名古屋）	1) 中間まとめ(欧州提案資料まとめ)
9月8日～9月9 日	クッション性分科会	岡山大学	1) 岡山市立大学 情報工学部 大田准教授研究室見学 2) シート技術研究発表について
9月12日～9月 15日	ブレーキホース部会 中国 ミッション	北京・天津	1) CCAP訪問 2) CATARC訪問 3) JAMA北京 訪問
9月22日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) EGRクーラ放熱性能試験方法ISO規格化について
	摩擦材技術部会	曙ブレーキ工業	1) 自技会情報共有 2) 標準化調査中間報告 3) ISO会議(対応検討)
9月25日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2018年度版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
9月27日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 中国ミッション報告 2) 中国CCC監査について
9月28日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) CRSインフォーマル会議・CRS国内対応会議報告 2) NASVA関連対応について
9月29日～9月 30日	オイルシール技術部会	KKR宮の下	1) JIS改訂検討
10月4日	後退警報器部会	自動車部品会館	1) JASIC騒音分科会報告 2) 後退警報TF対応 3) 今後の部会運営、及び会則

●行事予定〔11/16～1/15〕

月 日	会合名称など	概 要	場 所
11月17日	DE促進部会 幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	化学物質リスクアセスメントセミナー		名古屋国際センター
//	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
11月21日	電線部会		自動車部品会館
11月22日	省エネ事例・情報展開TF		自動車部品会館
//	温暖化防止推進分科会		自動車部品会館
11月24日	物質調査システム分科会 幹事会		自動車部品会館
11月27日	車輪技術部会		自動車部品会館
11月29日	渉外担当幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
11月30日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
12月1日	化学物質規制対応分科会 幹事会		自動車部品会館
//	オイルシール技術部会		自動車部品会館
12月5日	総合技術委員会 幹事会		自動車部品会館
12月7日	安全装置部会合同会議		自動車部品会館
12月8日	物質調査システム分科会 幹事会		自動車部品会館
//	物質調査システム分科会		自動車部品会館
//	ブレーキホース部会		自動車部品会館
12月12日	工場用化学物質分科会 入口管理G		自動車部品会館
//	工場用化学物質分科会 法規制調査G		自動車部品会館
//	工場用化学物質分科会		自動車部品会館
12月13日	基準認証部会 幹事会		自動車部品会館
//	基準認証部会		自動車部品会館
//	化学物質リスクアセスメントセミナー		東京ウィメンズプラザ
12月14日	NX研究会		デンソー（刈谷）
12月15日	DE促進部会 幹事会		デンソー（刈谷）
//	DE促進部会		デンソー（刈谷）
12月19日	環境保全分科会		自動車部品会館
12月22日	電線部会		自動車部品会館
12月25日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
12月26日	渉外担当幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館

「米国自動車市場に久しぶりの販売減速トレンド」

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

2008年9月に米国のリーマン・ブラザーズの経営破綻をきっかけに起こった世界的金融危機は各国の経済に壊滅的といってもよいほどの打撃を与えました。自動車の販売も大幅に落ち込んでしまいましたが、自動車産業はその後驚くほどのペースで力強い回復を示し、米国内の新車販売台数は2016年まで毎年大幅に増加し続けて来ました。

しかしこの傾向は昨年後半に頭打ちとなり、今年になって自動車メーカー各社は販売増トレンドを維持するために高額の販促奨励金（インセンティブ）を競って提供しています。それでも今年は昨年のレベルに届かないだろうと言われていて、来年以降はしばらく販売減少傾向が続くと予想されています。

米国の自動車販売というのは元来周期的に増減してきたものですが、これまでは乗用車、ピックアップ、スポーツ用多目的車（SUV）など全ての種類のクルマが揃って増減するサイクルであったのに、今年は様子が違います。乗用車の販売低迷が止まらず全体の「減少傾向」はほぼ完全にそのためである一方で、ピックアップ、SUV、そして最近人気の高いクロスオーバー SUVなどライトトラックと呼ばれるカテゴリーに属するモデルの販売はむしろ増加を続けているのです。

そして近年加速度的に進歩している、自動ブレーキなどのクルマの安全性を向上させる装備や乗り込んだとたんに所有するスマートフォンの機能をダッシュボード上のディスプレイで利用できる装備などが新しいモデルの販売を支えています。さらにこれからは100年以上自動車の推進システムとして用いられてきた内燃機関でなく、バッテリーのパワーで回るモーターを動力源とするクルマが新しいクルマの魅力あるオプションとして増えていくことでしょう。

すると当然、減速サイクルにさしかかった販売台数を少しでも下支えして、少なくなった台数の中でより大きいシェアを勝ち取ろうとするために、自動車メーカー各社はここまで述べた市場の好みにライバルより早く商品ラインアップを合わせようと競争することになります。

排気中の温室効果ガスを減らさなければならないという課題に自動車産業はパワートレインの電化という答えを見出したものの、そのための技術開発に莫大なコストがかかるだけでなく、生み出したEVという新しい商品を多くのお客にとって魅力的なものにするというさらに困難なハードルをなかなか超えられないままです。

ここで単純な答えを試みるなら、人気の高いピックアップやクロスオーバーをEVモデルにすることだということになるでしょう。そのダッシュボードに新しいインフォテインメント技術が豊富に装備されていればさらにプラスです。

だが、実際にこれら人気車種の現在のファンたちを失わず、さらに多くの人々にも好まれるように新しいクルマを生み出すのはそんなに簡単なことではないのは当然です。それでも販売減少期間を乗り切り、世界中の自動車先進国で厳しくなる排ガス規制をクリアしながら、ライバルより多くのお客にクルマを買ってもらうために、自動車メーカーはその答えを見つけ出さなければならないのです。

だからこそ、その競争に勝つメーカーが新しい時代に創り出すクルマはきっとこれまで私たちが知らなかった素晴らしいものであるに違いありません。さて、そのクルマの前面にはいったいどのブランドのバッジがついていることでしょうか。

<完>

中部支部 中小企業部会主催 「旭鉄工株式会社」視察報告

(一社) 日本自動車部品工業会 中部支部

中小企業部会 梶川悦司 (記)

(光精工(株) 執行役員本社工場長)

1. 日時

2017年8月9日 (水) 13:30 ~ 15:30

2. 視察先

旭鉄工株式会社 本社工場
(愛知県碧南市中山町7-26)

3. 参加者

中部支部 会員企業10社32名

4. 視察スケジュール

【13:30~14:30】

IoTシステム説明及びプラレール実演

【14:30~15:15】

切削工程/組付工程現場活用事例及びセンサー説明

【15:15~15:30】

質疑応答

5. 訪問目的

自動車部品のものづくりにIoTシステムを導入し、生産性の大幅な向上に取り組む旭鉄工の製造現場を見学し、そのシステム活用方法を学ぶ。

6. 会社概要

代表者：代表取締役社長 木村 哲也

設立：昭和16年(1941年)8月

資本金：2,700万円

従業員数：480名 (2015年度)

生産部品：エンジン用バルブガイド、
フォークギアシフト、ストラット
ロッド

7. 視察報告

トヨタTNGAで部品共通化が進み、受注増に対応する為、生産性向上に取り組み始め、各設備の稼働状況や生産時間を正確に把握することが必要になってきた。反面、一人で複数の生産ラインを管理する為、「生産管理板」へ正確に記入することが困難であった。

そのようなニーズから、製造ラインの稼働状況をモニタリングする、安価でシンプル、古い設備にも取り付け可能なIoTシステムを自ら開発した。

現在、同システムの外販だけでなく、コンサルティングを行う別会社を創業してい



る。

前述したように、現場改善を行うにあたって時間帯ごとの生産数やライン・設備の停止時間、その理由を知ることは改善の第一歩として重要なことであり、その為のツールとして「生産管理板」がある。但し、同時刻に多数台の生産実績や停止要因を「生産管理板」に記入することは、物理的にムリがあり、生産情報が荒くなる。また、人と機械の役割分担、「人は付加価値の高い仕事」すなわち改善を行うことに集中し、生産数やサイクルタイムを測定することなどは機械に任せよう。そういう考え方のもとに、このIoTシステムを開発されたとのこと。システム開発のコンセプトは、

- ①小回りが利き安価であること
- ②旧式の設備であっても情報を取り出せること
- ③生産情報をリアルタイムで取出せることとの説明を受けた。

実際、生産現場で設置されたシステムを各所で見学した。設備毎に従来から取り付けられているあんどん（赤色灯など）に締結バンドで光センサーを固定し、その光センサーからの信号を無線で発信・受信しクラウドにあげ、スマホで見る。光センサーは、設備の個性によって住宅用の扉開閉確認などで使われている磁気センサーを使用するなど使い分けられている。その他色々な工夫や努力により開発されたシステムと理解できた。

このシステムを導入した結果、正確な生産情報を活用した改善を行うことにより、非稼動要因つぶしやサイクルタイムの短縮



による出来高アップが効率良くてきたという。

また、生産能力が不足していると思われた設備を増設する必要もなくなり、設備投資額そのものも削減できたという。

8. 所感

私がTPSm自主研に参加していた頃、トヨタ職制殿からよく言われていたことを思い出した。「事実をしっかりつかめ」、「うわさ改善をするな」改善の考え方や進め方を継承しながら、これらのシステムを活用することは、今後必要性がさらに増してくると思われる。

最後になりましたが、ご対応頂いた旭鉄工の木村社長様はじめ、従業員の方々に感謝申し上げます。

行政・団体

8月.....

■国交省、タカタ製エアバッグ未改修車両 来年5月から車検通さず (31日)

国土交通省は、タカタ製エアバッグ用インフレーター（膨張装置）のリコール（回収・無償修理）を済ませていない車両の一部について、来年5月から車検（自動車検査）を通さない方針を発表。

9月.....

■経産省、税制改正要望 車体課税抜本見直し柱に (1日)

経済産業省は、2018年度の税制改正要望として「車体課税の抜本見直し」を掲げた。

■経産省、概算要求をまとめ 自動運転実証など継続(1日)

経済産業省は、2018年度の概算要求をまとめた。

■経産省中小企業復興補助金、自動車関係含め新たに117グループ (4日)

経済産業省はこのほど、中小企業等グループ施設等普及整備補助事業の採択結果を公表。

■新エネルギー・産業技術総合開発機構、排水油脂を活用したバイオマス発電車開発 (14日)

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、排水に含まれる油脂をエネルギーに変換する事業を展開するティービーエムと共同で、排水油脂で発電する国内最大級のバイオマス発電車を開発した。

■経産省、モデルベース開発の業界共通基盤構築へ (19日)

経済産業省は、モデルベース開発（MBD）の業界共通基盤作りに乗り出す。

■経産省・環境省方針、再生プラスチック使用車両 リサイクル料金ゼロも (20日)

経済産業省と環境省は、再生プラスチック（再プラ）を一定割合で使う自動車のリサイクル料金を全額割引く方針を決めた。

■政府、地域未来投資促進法の基本計画70案を決定 自動車、部品など20件 (30日)

政府は、「地域未来投資促進法」に基づき、39道府県から提出された70の基本計画を第1弾として了承。

10月.....

■経産省、コネクテッド・インダストリーズ 自動走行など重点5分野指定 (4日)

経済産業省は、企業や業種の垣根を越えてデータを共有・活用することで生産性や付加価値を高める「コネクテッド・インダストリーズ」の新たな具体策を公表。

■シーテックジャパン2017開幕、電子・電機と車の融合進む (4日)

3日開幕した「シーテックジャパン2017」には、自動運転や先進運転支援システム（ADAS）、車の電動化対応など、自動車業界の大きなトレンドを反映した最新の技術が相次いで紹介された。電子・電機と自動車の融合が加速することを彷彿させる内容となった。

■国交省、自動操舵国際基準を導入 (11日)

国土交通省は、自動操舵のうち、車線維持支援機能などに関する国際基準を導入した。

■経産省、新素材開発の効率化へ測定データに共通規格 (12日)

経済産業省は、新素材の開発に使う計測や分析機器の高度化に来年度から乗り出す。

■名大が世界初の軽量シャシー製作 熱可塑性CFRP製 (17日)

名古屋大学ナショナルコンポジットセンター（NCC）は、熱可塑性炭素繊維複合素材（CFRP）を使用した自動車用シャシーの製作に世界で初めて成功した。

■タカタ製エアバッグ改修率、9月末で81.5% (19日)

国土交通省は、タカタ製エアバッグインフレーター（膨張装置）の改修状況を公表。

■国交相、日産の無資格検査問題 「型式指定制度の根幹揺るがす」 厳正に対処 (21日)

日産自動車が無資格検査の発覚後も一部の工場で不適切な完成検査を続けていた問題で、石井啓一国土交相は「再び自動車ユーザーに不安を与え、型式指定制度の根幹を揺るがす行為だ」と改めて批判し、今回の事案も含め、原因究明や再発防止策を今月末までに報告するよう同社に指示したことを明らかにした。

■東京モーターショー2017 最先端技術、世界に発信 EV・自動運転で競演 (26日)

東京ビッグサイトで27日に開幕する「第45回東京モーターショー2017」（日本自動車工業会主催）が報道関係者に公開された。

■日産自動車、不適切完成検査で罰金2億円も (27日)



NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

クローズアップ

ジェスチャーで車載器操作、次世代技術に脚光

車室内の操作はジェスチャーで一。車内のインターフェースでハプティクス（触覚）技術や空中浮遊スイッチなどの新技術の開発が進んでいる。英ベンチャー企業ウルトラハプティクスは「空中ハプティクス技術」を開発、車室内のオーディオや空調の操作をハプティクスで行う用途を見込む。村上開明堂は空中浮遊スイッチをディスプレイ上に表示できる特殊光学デバイスを開発した。操作性やデザイン性の向上につながる技術として提案していく。



日産自動車の不適切な完成検査問題で、国土交通省の奥田哲也自動車局長は、道路運送車両法の改正で厳しくなった罰則の適用もあり得るとの見方を示した。

■東京モーターショー一般公開 クルマの未来がここに (28日)

「第45回東京モーターショー2017」（日本自動車工業会主催）の開会式が27日、会場の東京ビッグサイトで開かれ、開幕した。

■自工会会長代行、現地現物の重要性指摘 (28日)

日産自動車に続いてスバルでも無資格の従業員が新車の完成車検査をしていた問題について、日本自動車工業会の豊田章男会長代行は、「BtoCの製造業は100%の品質確保を期待されている」。

国内

8月.....

■三菱電機など4社、高精度GNSS測位サービス 合併で配信事業 (29日)

三菱電機や独ロバート・ボッシュは、高精度GNSS（全球航法衛星システム）測位サービスを配信する事業を合併で展開することで合意した。

9月.....

■車とサイバーセキュリティ双方に知見、ホワイトモーション本格始動 (16日)

カルソニックカンセイと仏ITセキュリティ企業クォークスラブとの合併会社ホワイトモーションが本格始動。

■コンチネンタル、半透明表面材を開発 車内照明用に(19日)

独コンチネンタルは、車内インテリアの照明に用いることができる半透明の表面材を開発する。

■日本電産、単眼カメラとミリ波レーダーを一体化ADASセンサーを開発 (21日)

日本電産は子会社の日本電産エレシスが、単眼カメラとミリ波レーダーを一体化したADAS（先進運転支援システム）センサーを開発した。

■タカタの連鎖倒産ゼロ 民事再生法適用申請から3カ月(27日)

帝国データバンクは、シートベルト・エアバッグ大手のタカタが6月26日に民事再生法の適用を申請してから3カ月目となる9月25日までに取引先の連鎖倒産が1件も発生していないと発表。

■小糸製作所、レーザースキャナー内蔵の自動運転車のヘッドランプ開発 (29日)

小糸製作所は、レンズ内に自動運転車などへの搭載が見

込まれるLiDAR（レーザースキャナー）を内蔵したランプシステムを開発する。

10月.....

■東芝、次世代リチウム電池を試作 EVの航続距離を3倍に (4日)

東芝は、リチウムイオン電池の負極材に使用されている黒鉛と比べて2倍の容量を持つチタンニオブ系酸化物を負極材に用いた次世代リチウムイオン電池（SCiB）の試作に成功した。

■ホンダ、狭山の生産終了 21年度めど寄居に集約、進む電動化に対応も (5日)

ホンダは、埼玉製作所狭山工場（埼玉県狭山市）の生産を、2021年度をめどに寄居工場（埼玉県寄居町）に集約する。

■神戸製鋼、性能データ改ざん 自動車メーカー、品質への影響調査急ぐ (11日)

神戸製鋼所がアルミ製品などの品質データを改ざんしていた問題で、自動車メーカーへの影響が広がっている。

■日野、部品単位で最適コスト 調達改革に着手 (12日)

日野自動車は部品コストを最適化する調達改革に着手した。

■マツダ、HV撤退 次世代商品は高効率エンジン軸に (16日)

マツダは2019年からの次世代商品展開でハイブリッド車（HV）の設定を取りやめる。

■三菱電機、自動運転車を公開 自律型・インフラ型が相互監視 (18日)

三菱電機は、同社の自動運転技術を搭載した「e-AUTOX（エックスオート）」のメディア向け試乗会を赤穂テストコース（兵庫県赤穂市）で開催した。

■ホンダ、開発初期から調達念頭 コスト削減容易に (17日)

ホンダは、設計段階から調達部門を交えた車両開発を展開する。

■ライトハウス、「みちびき」の測位補強サービス 受信に世界初成功 (23日)

ライトハウステクノロジー・アンド・コンサルティングは、準天頂衛星「みちびき」からL6周波数帯で提供されるセンチメートル級の測位補強サービスの受信に世界で初めて成功した。

■台風21号、自動車メーカーの操業にも一部影響 (24日)

台風21号により、自動車メーカーの操業にも一部影響が出た。トヨタ自動車は従業員の安全確保のため、九州、東北、北海道にある子会社を含む国内全工場で23日の1直目の稼働を停止した。

■デンソー、「電動化」「自動運転」に5000億円 (27日)

デンソーは2018～20年度の3年間に「電動化」と「自動運転」の2分野の研究開発投資を合計で約5000億円を充当する計画を明らかにした。

■ポッシュ、インクリメントPと提携 (27日)

ポッシュとインクリメント・ピー（東京都文京区）は、自動運転用高精度マップ分野での提携に合意した。

■日産の国内生産停止、サプライヤーに影響 (28日)

日産自動車の無資格者による完成検査問題で、国内向けモデルの生産を停止した影響がサプライヤーにも広がってきた。

海 外

8月.....

9月.....

■ダイキン、伊社を買収 フッ素樹脂コンパウンド事業に参入 (1日)

ダイキン工業は、イタリアのフッ素樹脂コンパウンドメーカーのヘロフロンを買収する。

■東洋ゴム、米集団訴訟に52億円支払い (19日)

東洋ゴム工業は、米国で自動車用防振ゴムと等速ジョイントブーツの販売で価格カルテルを結んでいたことに関連して損害賠償を求めて集団提訴されていた問題で、一部の原告と和解することで合意した。

■西川ゴム、米カルテル56億円で和解 (19日)

西川ゴム工業は、同社が米国で自動車用シール部品の価格カルテルを結んでいたことで損害を受けたとして米ミシガン州東部地区連邦地方裁判所に提訴されていた問題で和解することで合意した。

■ブリヂストン、米子会社がトラックメンテ会社売却 (21日)

ブリヂストンは、米子会社のブリヂストン アメリカス (BSA) がトラック事業者向けにメンテナンスサービスを提供しているスピードコを売却する。

■メキシコ地震、日系サプライヤー相次ぎ操業停止 送電などに支障 (22日)

メキシコ中部で19日発生したマグニチュード7.1の大規模地震の影響で、日系自動車メーカー、日系サプライヤーの現地生産拠点が相次ぎ操業を停止した。

■ブランド世界ランキング、自動車分野でトヨタが首位 (29日)

米ブランドコンサルティング会社のインターブランド社は、グローバルのブランド価値評価ランキング「ベスト・グローバル・ブランド2017」を発表。

10月.....

■ユーシン、米子会社を解散 (19日)

ユーシンは、米子会社のユーシンUSAを解散する。

市 場

8月.....

9月.....

■JATMA、今年のタイヤ需要を上方修正 上期実績好調で1%増見込む (14日)

日本自動車タイヤ協会 (JATMA) は、2017年の国内自動車タイヤ需要見通しを修正すると発表。

■安全ガラス6月、生産出荷ともに5ヵ月連続プラス (27日)

板硝子協会は6月の板ガラス生産出荷動向を発表した。

■世界販売 全7社が4ヵ月連続で前年超え (28日)

乗用車メーカー7社 (ホンダを除く) が発表した2017年8月の世界販売実績は、7社すべてが4ヵ月連続で前年同月実績を上回った。

10月.....

■17年度上期 新車販売、5年ぶりに増加 軽15%増でプラス転換 (3日)

自販連と全軽自協が発表した2017年度上期 (4～9月) の新車販売台数は、前年同期比7.7%増の248万2835台で、上期として5年ぶりの増加となった。

■乗用車メーカー 中国販売、3社が最高 4～9月 (24日)

乗用車メーカーの2017年度上期 (4～9月) の日米中販売台数は、トヨタ自動車、ホンダ、マツダの中国販売が上期として過去最高だった。

記者の目

求む！若手の自由な発想

5日に閉幕した東京モーターショーでは「電動化」「自動運転」「コネクテッド」という3大トレンドに向けた部品メーカーの提案が目白押しだった。特に自動運転は実用化にまた一歩近づいた印象だ。各社のブースではコックピットで自動運転を実演し、行列もできるなど一般ユーザーの関心の高さがうかがえた。

各社のデモは近未来を感じさせた。自宅でスマホを使って目的地を設定すると、乗車時には個人認証してドライバーの情報がクラウド経由でダウンロードされる。AI (人工知能) がユーザーの好みに合わせて「気の利く」提案を行い、降車後は駐車場まで自動走行し、スマホに道案内を引き継ぐなど、人と車、自宅がシームレスにつながる社会をイメージできた。

ただ、各社の展示内容はおおむね似ていた。確かに自動運

転技術のレベルは向上したが、前回のような新たな発見や驚きは少なく感じた。この2年で自動運転関連の取材を重ねたことが一因かもしれないが、より現実的な提案に移りつつあるとも思えた。

一方、詳細は記さないがユニークな展示もあった。社長に「面白いですね」と声をかけると、若手社員による研究チームの発案と教えてくれた。数日前に、今回出展していない企業が自動運転車向けの斬新な試作品を披露したことを思い出した。この会社も若手の意見を採用したという。

もちろん、このまま実用化されるわけではない。ただ、他社にない製品を生み出すためには若者の自由な発想を許容する土壌も必要だ。とっぴなアイデアで溢れたモーターショーも見てみたい。(N)



このダイジェストは8月28日～10月28日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位：台）

	2017. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	740,349	101.8	4,173,373	96.6	703,208	92.8	4,876,581	96.0
普 通 車	456,461	112.9	2,512,113	106.1	441,977	101.3	2,954,090	105.3
小 型 四 輪 車	157,539	100.6	890,456	94.8	150,652	93.7	1,041,108	94.7
軽 四 輪 車	126,349	75.7	770,804	76.2	110,579	68.9	881,383	75.2
ト ラ ッ ク	108,079	91.9	609,173	89.9	103,946	84.3	713,119	89.0
バ ス	11,321	92.8	61,587	89.7	11,258	80.0	72,845	88.1
合 計	859,749	100.3	4,844,133	95.6	818,412	91.5	5,662,545	95.0

2. 四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2017. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	396,449	104.5	2,346,633	91.4	357,267	91.3	2,703,900	91.4
普 通 車	143,427	129.8	826,422	105.9	121,213	102.8	947,635	105.5
小 型 四 輪 車	130,573	110.1	751,395	97.0	119,914	90.3	871,309	96.0
軽 四 輪 車	122,449	81.5	768,816	76.0	116,140	82.6	884,956	76.8
ト ラ ッ ク	79,780	110.0	427,516	98.7	68,760	101.3	496,276	99.0
バ ス	1,240	155.6	8,392	138.1	1,520	148.1	9,912	139.6
合 計	477,469	105.5	2,782,541	92.6	427,547	92.9	3,210,088	92.6

3. 四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2017. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	382,220	112.5	1,993,840	106.6	367,103	103.3	2,360,943	106.1
普 通 車	360,111	113.9	1,869,936	107.5	342,913	103.2	2,212,849	106.8
小 型 四 輪 車	21,899	92.7	122,691	95.3	23,860	104.1	146,551	96.6
軽 四 輪 車	210	538.5	1,213	83.5	330	407.4	1,543	100.6
ト ラ ッ ク	32,520	79.9	178,341	77.1	32,804	75.7	211,145	76.9
バ ス	10,722	103.7	56,690	84.8	10,769	68.7	67,459	81.7
合 計	425,462	108.8	2,228,871	102.8	410,676	99.1	2,639,547	102.2

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2017. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総 括	自動車部品 41品目	595,137	106.4	3,376,220	108.5	584,685	105.0	3,960,905	107.9
	関連自動車部品 9品目	126,565	115.4	705,514	113.5	124,599	112.9	830,113	113.4
	内燃機関電装品 5品目	34,653	101.9	194,407	100.5	32,699	101.7	227,106	100.7
	二輪車部品 4品目	5,932	118.4	35,689	111.7	5,574	110.0	41,263	111.5
	合 計	762,287	107.6	4,311,830	108.9	747,557	106.1	5,059,387	108.5

			2017. 6月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 7月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	4,077	117.3	22,024	111.5	4,046	115.9	26,070	112.2
	2	ピストンリング	4,025	108.3	22,399	108.5	3,975	109.5	26,374	108.7
	3	シリンダーライナ	1,727	105.7	10,095	102.7	1,687	109.0	11,782	103.6
	4	吸気弁・排気弁	3,857	106.0	22,248	109.2	3,893	118.8	26,141	110.5
	5	ガスケット	2,447	100.7	13,889	98.3	2,289	97.0	16,178	98.1
	6	燃料ポンプ	1,585	116.0	9,418	108.4	1,584	115.3	11,002	109.3
	7	気化器・燃料噴射装置	21,906	99.0	129,173	98.7	21,431	97.8	150,604	98.6
	8	空気清浄器	2,343	89.2	12,613	101.0	2,323	117.4	14,936	103.2
	9	油清浄器	1,816	97.8	10,699	99.2	1,793	101.6	12,492	99.5
	10	油ポンプ	2,680	104.6	15,493	106.2	2,626	103.5	18,119	105.8
	11	水ポンプ	2,237	104.3	12,749	104.2	2,184	102.9	14,933	104.0
	12	放熱器(ラジエータ)	15,093	101.4	86,266	102.2	14,772	100.7	101,038	102.0
	13	クラッチ装置	4,924	91.9	30,627	92.9	4,666	91.3	35,293	92.7
	14	自動変速装置	211,481	111.7	1,187,583	113.0	209,964	111.8	1,397,547	112.9
	15	ユニバーサルジョイント	3,673	109.3	20,542	113.1	3,533	109.8	24,075	112.6
	16	プロペラシャフト	4,724	97.8	28,172	104.9	4,660	93.2	32,832	103.1
	17	車輪	9,392	121.3	50,347	108.5	9,097	117.7	59,444	109.9
	18	かじ取りハンドル	4,194	132.7	22,068	128.1	4,510	140.1	26,578	129.9
	19	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	38,478	102.9	222,591	105.9	37,876	101.9	260,467	105.3
	20	ショックアブソーバ	10,500	87.1	60,532	86.8	10,440	87.1	70,972	86.9
	21	ブレーキ倍力装置	2,413	107.7	13,558	104.5	2,263	98.8	15,821	103.6
	22	ブレーキシリンダ	4,841	115.8	27,407	123.7	4,950	120.7	32,357	123.3
	23	ブレーキパイプ	3,034	107.5	17,172	105.8	2,897	108.0	20,069	106.1
	24	ブレーキシュー	2,855	99.1	15,911	95.4	2,787	98.7	18,698	95.9
	25	電子式ブレーキ制御装置	23,808	116.0	130,824	133.3	23,343	115.0	154,167	130.2
	26	燃料タンク(LPG用を除く)	7,638	102.8	42,443	102.0	7,438	98.7	49,881	101.5
	27	排気管・消音器	30,373	101.2	173,383	103.0	29,417	99.2	202,800	102.4
	28	窓わく	2,976	106.0	16,827	114.3	2,819	99.6	19,646	112.0
	29	ドアヒンジ・ドアハンドル・ロック	7,892	107.5	42,911	105.3	7,634	108.2	50,545	105.7
	30	窓ガラス開閉装置	4,859	110.2	26,703	106.9	4,676	122.7	31,379	109.0
	31	シート	77,791	103.1	446,880	127.4	74,338	95.9	521,218	121.7
	32	シートベルト	7,012	90.2	43,497	41.4	7,121	90.9	50,618	44.8
	33	エアバックモジュール	8,745	112.4	49,876	115.1	9,061	103.6	58,937	113.2
	34	スイッチ類	15,793	102.8	91,991	112.2	15,180	97.8	107,171	109.9
	35	計器類	11,287	92.3	63,243	92.9	11,111	91.1	74,354	92.7
	36	ワイパー	7,996	114.5	44,920	110.2	7,951	114.0	52,871	110.8
	37	警音器	1,788	122.0	10,051	116.0	1,805	127.5	11,856	117.7
	38	暖房装置	6,008	93.3	34,708	97.7	5,961	94.8	40,669	97.3
	39	軸受メタル	4,099	103.2	22,983	97.8	3,960	103.0	26,943	98.6
	40	プッシュ	3,146	110.7	16,982	104.6	3,012	109.0	19,994	105.2
	41	オイルシール	9,624	107.4	54,422	105.0	9,612	109.2	64,034	105.6
		合 計	595,137	106.4	3,376,220	108.5	584,685	105.0	3,960,905	107.9
関連自動車部品 (9品目)	1	かさね板ばね	2,301	103.6	12,617	101.6	2,333	103.6	14,950	101.9
	2	つまきばね	1,954	116.1	10,866	108.6	1,903	106.7	12,769	108.4
	3	線ばね(自動車用)	5,337	104.5	30,226	105.8	5,148	107.6	35,374	106.0
	4	エアコンディショナ(乗用車用)	26,412	98.0	154,276	104.4	26,170	97.4	180,446	103.4
	5	白熱電球(自動車用)	795	99.6	4,720	105.0	743	93.2	5,463	103.2
	6	電気照明器具(自動車用)	46,223	122.6	258,189	121.2	45,714	118.3	303,903	120.8
	7	カーオーディオ	5,484	109.9	24,484	81.3	4,762	100.4	29,246	83.9
	8	カーナビゲーションシステム	28,990	95.9	167,500	95.6	28,719	94.3	196,219	95.4
	9	鉛蓄電池(自動車用)	9,069	107.0	50,631	103.0	9,107	115.8	59,738	104.8
		合 計	126,565	115.4	705,514	113.5	124,599	112.9	830,113	113.4

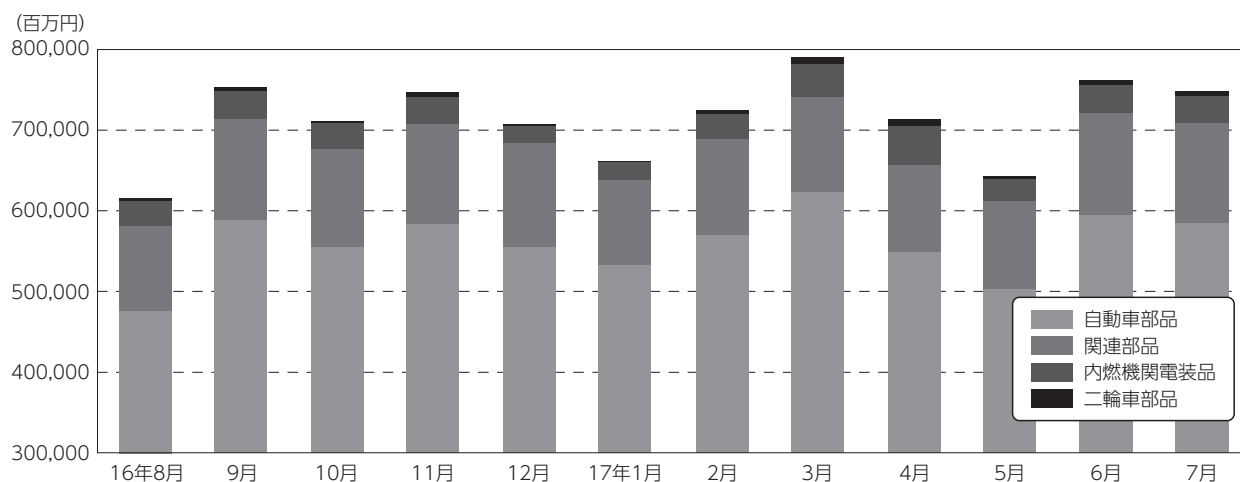
指標・統計

			2017. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電装品 (5品目)	1	充電発電機 (ダイナモ)	6,803	97.9	39,404	96.3	6,563	100.8	45,967	97.0
	2	始動電動機 (スタータ)	7,751	95.2	43,346	93.6	7,402	95.2	50,748	93.9
	3	配電器 (ディストリビュータ)	356	74.9	2,236	78.2	330	69.3	2,566	76.9
	4	点火線輪 (イグニッションコイル)	8,078	103.6	43,784	100.7	7,840	103.3	51,624	101.1
	5	点火栓 (プラグ)	11,665	109.6	65,637	109.6	10,564	107.8	76,201	109.4
		合 計	34,653	101.9	194,407	100.5	32,699	101.7	227,106	100.7
二輪自動車部品 (4品目)	1	気化器	832	97.8	5,009	105.2	779	104.3	5,788	105.1
	2	ショックアブソーバ	2,267	121.9	13,477	113.7	2,048	102.0	15,525	112.0
	3	計器類	870	99.8	5,087	94.9	799	93.0	5,886	94.6
	4	ブレーキ装置	1,963	137.6	12,116	121.5	1,948	134.0	14,064	123.1
		合 計	5,932	118.4	35,689	111.7	5,574	110.0	41,263	111.5

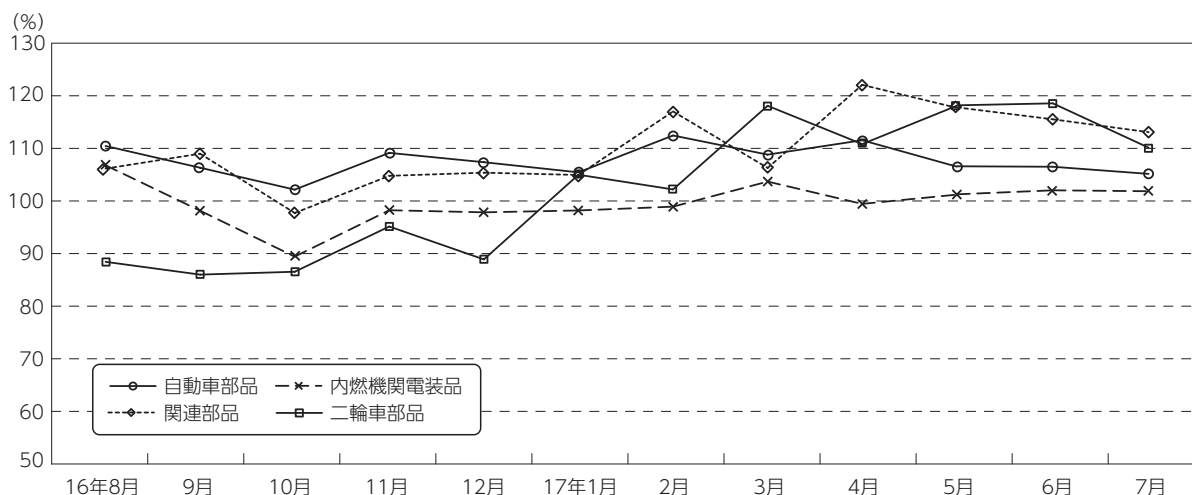
(注)

- ①平成26年1月分より／経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「エアバッグモジュール」の定義が変更されました。
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。
接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。
- ②平成26年1月分より／経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。
- ③平成29年1月分より／品目の掲載順序・表記名を一部変更しました。

最近12ヶ月の自動車部品の生産推移



自動車部品生産の対前年同月比の状況





黄海経済自由区域 | 中国向けの輸出入前進基地。先端・成長産業の国際的な協力拠点

投資の長所

1. 先端産業クラスタの形成

- ▶ 自動車(現代起亜), 半導体(サムスン電子), ディスプレイ(LG), 鉄鋼(現代製鉄)クラスター
- ▶ 玄谷、魚淵、閑山など、近隣8つの外国人専用賃貸団地の分譲率 100%

2. 周辺における大規模開発

- ▶ 世界最大級の半導体工場 (① サムスン電子 古徳産業団地, 2016. 9.)
- ▶ 機械・電子など、有望新産業のハブ (② LG振威産業団地, 2017. 12.)
- ▶ 親水型グローバル観光リゾート (③ 平沢湖 観光団地, 2021.)
- ▶ 東北アジアにおける最大規模の平沢米軍基地 (④ K-6, 2016.)

3. 巨大な国内外の背後市場

- ▶ 韓国人口60%の約3千万人が居住
- ▶ 1時間30分の飛行距離内に百万人以上の国際的都市が50所在

4. 便利な交通インフラ

- ▶ 仁川国際空港・清州国際空港から1時間
- ▶ 平沢 芝制駅 → ソウル (SRT, 20分)

5. 豊富な優秀人材の宝庫

- ▶ 韓国における研究開発人材の51%, 半導体従事者の60%
- ▶ 首都圏に位置する117大学(全国の34%)

6. 中韓FTAの最大受益地域

- ▶ 中国の沿岸産業ベルトから最短距離に位置 (寧城から396km, 烟台から505km)
- ▶ 自動車による物資流動量において韓国トップである平沢港は、東北アジアの海上物流ハブに成長すると期待されている (2016年、63船席 → 2030年、92船席)



黄海経済自由区域庁
YELLOW SEA FREE ECONOMIC ZONE AUTHORITY

ウェブサイト | <http://yesfez.gg.go.kr>

投資相談 | +82-31-8008-8593 / 8632



DENSO

Crafting the Core

より良い未来を次世代へ

Crafting
the Core